

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：株式会社萩・森倫館

活動地域：山口県萩市

活動におけるテーマ

『森と、まちと、人をつなげる』

活動団体および活動地域の紹介



人口 : 43,685人

R4年12月末日

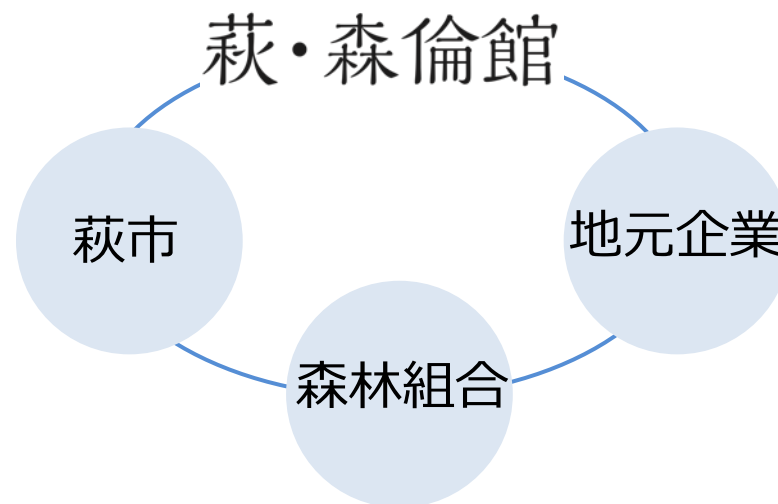
森林面積 : 市域の81%

56,449ha



■ 活動団体 :

地域商社を通じた
林業6次産業化による
循環型地域づくりを目指す

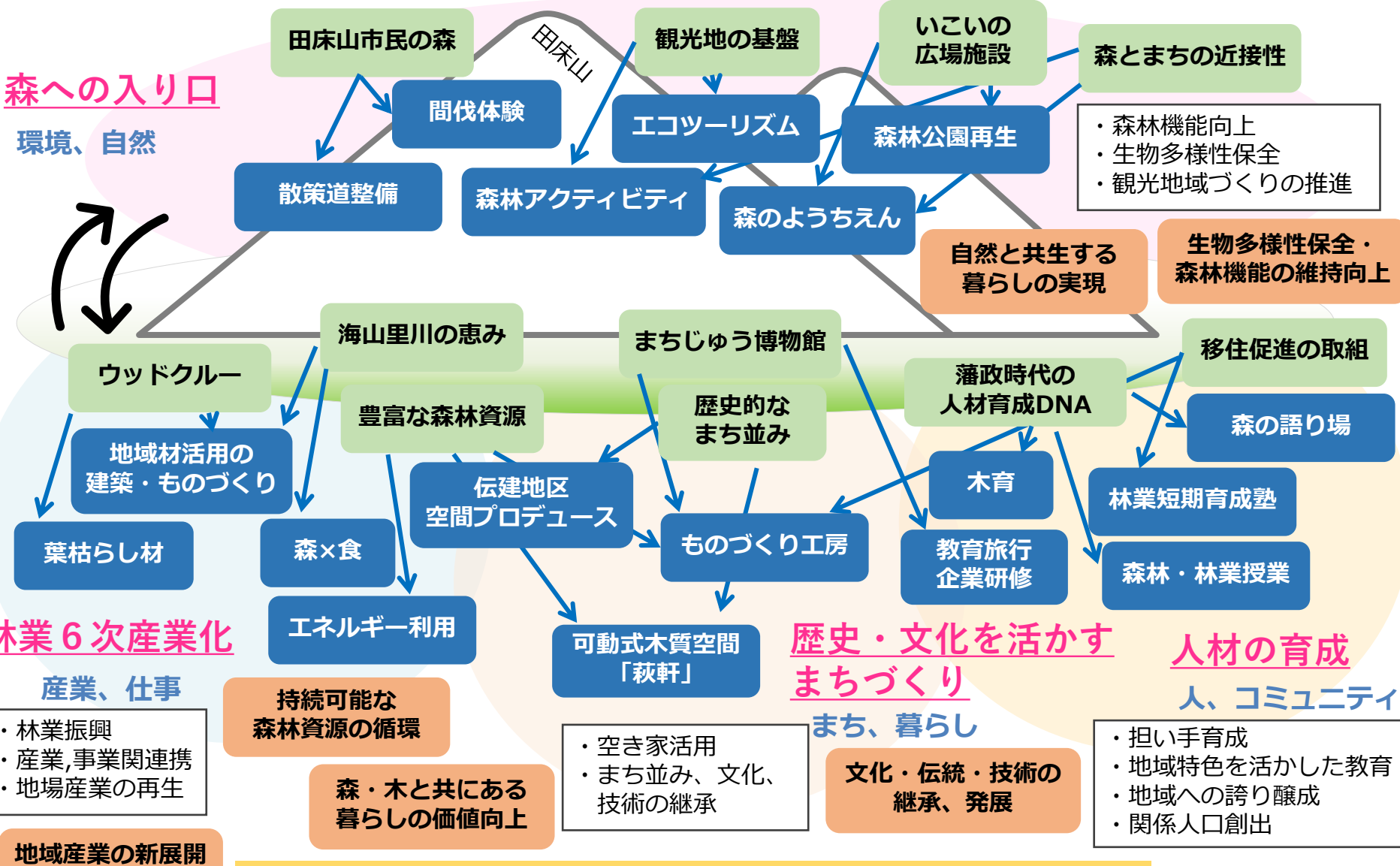
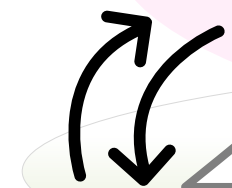


WEBサイト | <https://hagi-shinrinkan.jp/>

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

森への入り口

環境、自然



地域産業の新展開
グレードアップ

森とまちと人がつながり
風土・文化・伝統・技術が継承、循環していく地域

地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定		全国キックオフ ミーティング				中国ブロック 中間共有会						全国 成果共有会
人づくり			木育WS	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
				企画・関係者調整			中学校林業プロジェクト					
							連続講座	森の語り場				木育WS
森づくり			関係者調整・利用機会づくり									
		地域材PRイベント出店	◆	マルシェ出店	◆					マルシェ出店	◆	
場づくり				SH声かけ		SHmtg	◆	SH個別mtg				
			事業化に向けた関係者調整・検討									
				田床山調査							指定管理者採択	◆
							企画・関係者調整		田床山イベント	◆		

①意見交換、指定管理への立候補：官民連携の体制づくり



- ステークホルダーミーティング開催、フィールド調査
来年度以降新規予算案打診、森林公園施設の指定管理者への申請

気づき

- ・ 目指したい方向を示していくと、賛同/応援してくれる市民/市業者の方が多かった。その声を如何に取組みに反映できるか、協働の仕組みがつかれるかが次のポイント
- ・ 官民連携でプロジェクトを進行するには、幅広いステークホルダーの巻き込みが必要だということを再認識した
- ・ 個々の繋がりは既にあるため、プロジェクトが動き始めれば早く、大きな波となりやすい

②連続講義「森の語り場」：人材育成、新たなSHの発掘、つながりづくり



- 「森と地域循環・教育・建築・生き物・暮らし」をテーマに専門講師を招聘し全5回実施。計207名参加(現地:77名、オンライン:130名)

気づき

- ・ 切り口を変えれば、関わりの間口を広げられる
(分野を超えて協働)
- ・ 市内には地域課題をジブンゴトとして捉え実践(しようと)しているプレイヤーが多数いる
- ・ 既に連携しているSH参加者の理解度が深まった
- ・ 次のステップに繋がられる仕組み/動機づけが必要

③ 森林空間でのイベント：事業のタネの小規模稼働・検証

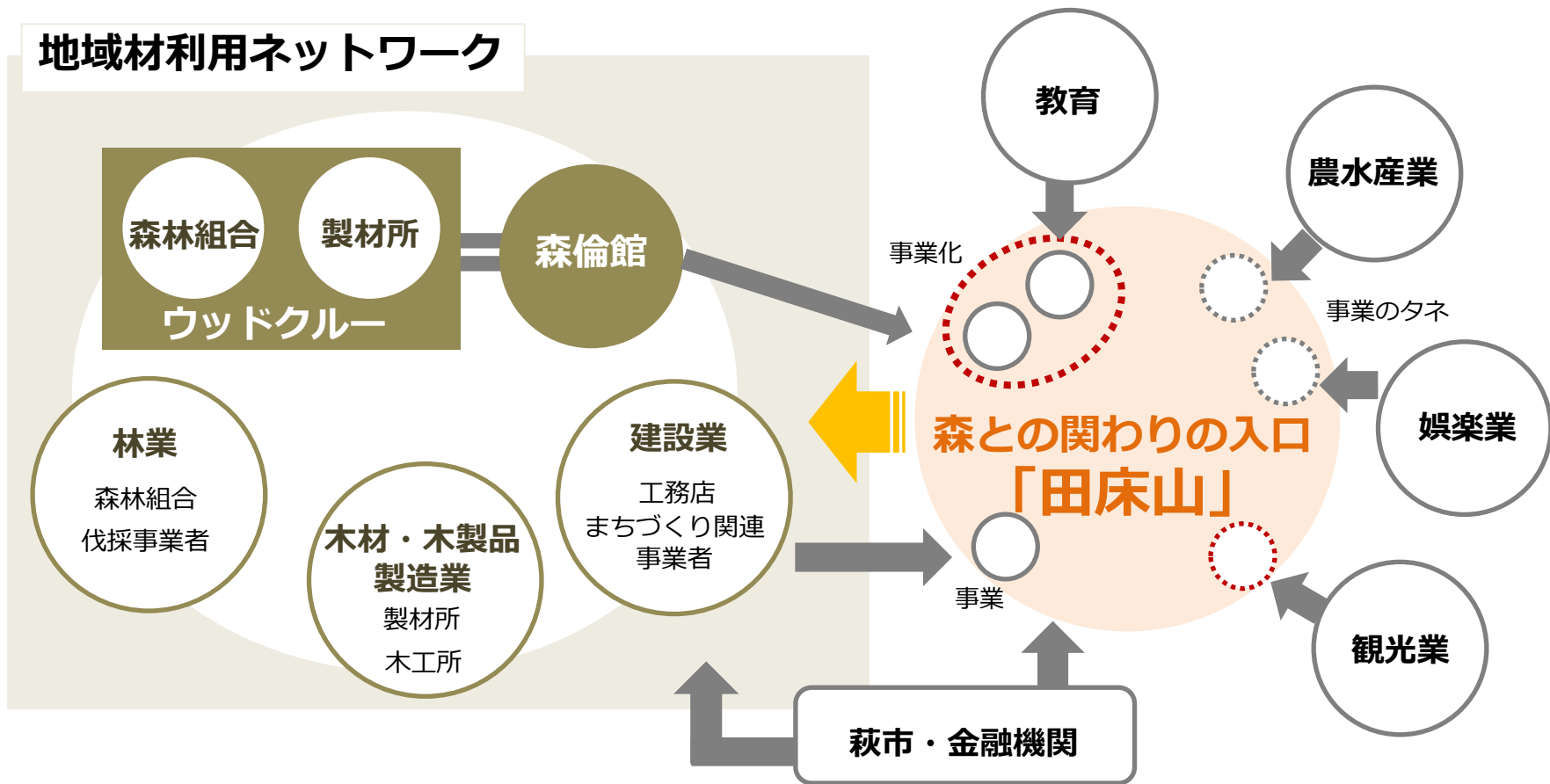


- 親子をターゲットとした自然あそび体験 計5組参加、
森あそびとマルシェイベント「ある日、森の中」13事業者・120名来場

気づき

- ・ 多様な事業主体に関わりをもってもらうには、社会的意義だけでなく経済性が伴っていなければ参入は難しい
- ・ 地域内外の人へ取組みを周知する機会となった
これをきっかけに新たな事業のタネも生まれた

現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化



- ・ステークホルダーの多様化（林業・木材産業以外への広がり）
- ・活動の認知（事業者の参加だけでなく、地元住民の応援の声）
- ・能動的なプラットフォームへの参加
- ・取り組みの具体化（具体の取り組みがなかったSHとも協働が発生）

成果

①地域プラットフォームの広がり

- ・ 森林/林業分野以外のステークホルダーへと取組の環が広がり、新たな視点での事業の可能性も検討できた。

②ステークホルダー/候補者との意見交換実施

- ・ 回数を重ねるごとに地域の課題や資源の深掘りができた。
- ・ 市民も巻き込んだ勉強会やイベントの実施により新たなステークホルダー候補者とのつながりを持てた。

③事業化に向けた基盤構築

- ・ 1年目で課題としていた森への入口づくりについて事業の道筋を計画することができた。またその一歩としての指定管理候補者への採択、来年度以降の官民連携に向けた意見交換を進めることができた。

課題

①運営体制の整備

- ・コミュニケーションや情報共有の場づくり
- ・プラットフォーム構築を共に進める主体的なコアメンバーの確保・育成

②ステークホルダーとの関係強化

- ・継続的に関わりを持てる仕組みづくり
- ・地域循環共生圏の概念やビジョンを現場レベルで浸透
- ・産業/分野を超えた横の繋がりづくり、コーディネート人材

③自走化に向けた仕組みづくり

- ・事業の担い手確保
- ・継続的な資金調達方法の検討
- ・具体的な目標のブラッシュアップ

活動における今後の展望

【事業化に向けた取組】

① 森への入り口事業の展開

- ・コンテンツ開発
- ・情報発信
- ・更なるステークホルダーの巻き込み
- ・施設活用に向けて行政/住民との合意形成

② 森の出口の具体化

- ・地域材を活用した商品開発（収益確保、協働プロジェクト創出）
- ・拠点の整備/活用（可動式木質空間やまち中の販売拠点）

【プラットフォーム構築に向けた取組】

③ 運営体制の強化

- ・川上～川下間での情報共有の場づくり（継続実施）
- ・事業主体の発掘/育成、事務局はコーディネーター側へ